

・研究発表3. 臨床的なリトミック（セラピューティック・リトミック）の可能性

濱谷 紀子（同志社女子大学）

《発表内容要旨》

現在、リトミックは音楽療法とのクロスカルチャーセラピーとして、重要な役割を果たしている。障害者にとってのセラピーの意味は、一人一人のニーズを明らかにして、目的を定め、実行の経緯を追っていくことによって明らかにされる。特に目標は臨床的意味によって支えられている。臨床的に設置されたリトミックは、これらの意味を明らかにする必要がある。

今回は、社会教育（公民館活動）という場面での障害者青年のためのリトミック活動の臨床的意味を明らかにしたい。以下はその核となる視点である。

(1)音楽感覚の獲得としての意味

内在している音楽感覚が目覚めることにより、一人一人の個性的な表現が保証される。

障害によって自覚できないリズム感覚を、音楽によって調整し、時間の流れやまとまりを感じるができる。

言葉を持たない障害者にとっても、歌やメロディーを感じるによって情緒やフレーズ感を持つことができる。

(2)身体感覚の獲得としての意味

身体感覚を自覚し空間を認知することは、自分の存在や身体表現に自信を持つことができる。

(3)コミュニティの一員としての意味

この場を通して、人の出会うことの大切さや楽しさを味わい、コミュニティの一員であることを家族ともども地域に認める活動となる。

これらは、それぞれが絡み合ってリトミックのプログラムの中で展開される。いくつかのプログラムを紹介し、それぞれの臨床的意味を明らかにしたい。